

わたしたちが運ぶのは未来です



**運輸省**



# みなと しみず

**発行所**

第五港湾建設局  
清水港工事事務所  
御前崎港事務所  
下田港事務所



**下田港外防波堤用  
消波ブロック内蔵双胴型ケーソン完成**  
 8階建ビルに相当

当所では、清水港の素顔や、ちよつと意外な情報を集めた、情報誌「ベイズ」を平成四年度から毎年度発行してまいりました。幸い、各方面からご好評をいただき、清水港あるいは清水のPRの一助になっているのではないかと自負しております。

しかし、印刷物の配布という形だけでは情報の届く範囲に自ずと限界があり、また、在庫切れでご要望に応えられなかったこともありました。そこで、より広い範囲の不定多数の人たちにも清水港を知っていただくために、四年間蓄積してきた「ベイズ」の情報をインターネットに乗せるため、所内に「ホームページ作成ワーキンググループ」を設け、現在鋭意作業中です。

第一弾のイベントや観光スポット、第二弾の夜景、第三弾は海外との交流、第四弾では清水港の日本一と「ベイズ」のエッセンスを取りまとめるとともに、清水港工事事務所の紹介や、施設概要・

**インターネットに乗って世界へ**  
**清水港工事事務所の**  
**ホームページを開設します**

利用状況なども載せる予定です。

日本中はもとより、海外の港湾関係者並びに一般のユーザーの方とも情報交換できるようにしたいと考えています。海外の港湾関係者も、簡単に当所のホームページを見つづけることができるように、また、世界中のネットサーファーが足を止めて清水港を感じてもらえるように、そんな工夫はないものかと知恵をしばっている毎日です。

ホームページの開設は十月です。ネットワーク上でお目にかかれることを楽しみにしております。



海洋教室

「清水港みなとづくり見学会」

子供達に、港に親しみ、港の大切さや建設の大変さを知ってもらうことを目的として、当所は7月23日、市立船越小学校4年生57名を招き、「清水港みなとづくり見学会」を実施した。

この見学会は、「海の旬間」の行事の一環として、静岡県海事広報協会が主催する「海洋教室」に協賛し、港内見学と工事現場見学をおこなったものである。

今年で2回目となるこの見学会は、昨年の反省点を踏まえ、念入りに準備を進めてきたものの、初めての体験の子供達が多いことや天候に左右されることなど思わぬハプニングも起きた。また、当日の朝には地元のFM放送「マリナル」でも紹介していただいた。

見学には、当所の監督測量船「まさき」、「ふじ」、「しもだ」の三隻を使用し、船上から港内の各施設を、また、三保の工事課で下船してケーソン製作作業現場を見学した。

午前11時、救命胴衣を身につけ、清水マリナーパークの棧橋から各船に分かれ乗船。日の出、富士見ふ頭をまわり、袖師、興津の各ふ頭、そして、

外港・三保防波堤へと船は進んだ。船酔いする子供がいるのではと、心配していたものの、スタップの現場案内の放送もかき消されるほどの元気さ。船内のマイクは子供達に奪われ学校放送に早変わり、船内はハイジャック状態となつてしまった。早く三保に着かないかと思つたスタップは大勢いたに違いない。



11時50分、三保で下船して当所のケーソン製作作業現場を見学した。その頃から小雨が降り出したが、子供達は雨なんか気にしない。スタップからケーソンの働きなどわかりやすく説明され、実際にケーソンを見ると「これがケーソンかあ」と感動の様子。また、下部の型枠しか見えない現場ではあったが、子供達の目には説明されたとおりの大きなケーソンが写つたのだろう。

港湾建設功労等  
第五港湾建設局長  
表彰行われる

去る7月19日(金)清水マリナービルにおいて平成8年度海事関係功労者等表彰式が行われ、五建・運輸局・海上保安部等の各功労者に表彰状が伝達されました。

例年は7月20日の「海の記念日」の式典で伝達していましたが、7月20日が「海の日」の国民の祝日として記念式典が名古屋で行われた為、表彰式のみを行ったものです。



今年の受賞者は、個人の部は清水港利用促進協会副会長として長年にわたり清水港の振興発展に尽力された(株)天野回槽店取締役社長山梨弘氏、長年港湾建設事業に従事され、港湾の発展に尽力された静和工業(株)工務部長鈴木功一氏の2名、団体の部は、清水港富士見岸壁(9m)改良工事で困難な現場条件下、優秀な成績で工事を完了させた松庫工

業(株)静岡支店1社が受賞し、当事務所善見政和所長より表彰状と記念品が手渡されました。

JICAの港湾関係研修生  
清水港工事事務所で研修

開発途上国に対する技術協力の一環として、外国の中堅港湾技術者に港湾に関する総合的な技術を取得させることを目的とした、国際協力事業団(JICA)が主催する研修で、来日中の外国人研修生16名が、8月13日清水港工事事務所に来所した。

一行は、当所所長から清水港の施設、利用状況、港湾計画等の説明を受けた後、当所の監督測量船「まさき」に乗船し清水港内の諸施設及びケーソン製作場の見学を行った。



各国の研修生は、清水港の諸施設をカメラに収め、また

技術者らしく専門的な質問も多くなされた。

ちなみに今回の参加国は、中国、タイ、フィリピン、インドネシア、パキスタン、バングラデシュ、スリランカ、トルコ、エジプト、ケニア、モザンビーク、チュニジア、メキシコの13カ国からの参加でそれぞれの国の技術指導者として期待されている人達です。

帰国後もいつまでも清水港を忘れずよい関係を保つていただけることを願いたい。

ケーソン製作場で  
中学生職場見学学習

去る5月27日、清水市立飯田中学校2年生生徒6名が、三保にある当事務所のケーソン製作現場を訪れ、ケーソンの作り方などについて学習をした。

飯田中学校では、進路指導の一環として生徒に職場での苦労や大変さ、喜びや充実感などについて、実際の職場を見学させ学ばせようと、2年生259名を対象に数名ずつの班に分け、種々の職場で学習をさせたものである。

清水・静岡両市議  
清水港を視察

清水市市会議員8名と静岡市市議会議員9名の17名が6

月19日当事務所を訪れ、所長より清水港の現状をビデオをまじえての説明を受けた後、監督測量船「まさき」で清水港内を船上より視察した。

この視察は、両市の市会議員有志による合同研修会の第1弾として実施されたものである。



**「みなと色彩計画」の中間報告がまとまる**

港の建物などの色彩に工夫や演出を加え、より個性的、魅力的で活気とるおいのある港としていくことを目的とした「清水港・みなと色彩計画」が平成4年にスタートしてから4年が経過したが、同計画推進協議会（田島學会会長）がこのたび中間報告を取りまとめた。

全体の進捗状況としては塗り替えの達成率が57%という

高い数字が出ており、色彩計画の効果が現れている。地区ごとの達成率としては、コンテナクレーンや上屋群を主要とした興津・袖師第1埠頭地区が69%、タンク群やLNG基地を主要とした袖師第2埠頭・東燃地区が83%、漁舎や冷凍倉庫群を主要とした江尻地区が34%、マリナーパークや上屋群を主要とした日の出地区が56%、チップアンローダーや穀物サイロ群、倉庫群を主要とした富士見地区が64%、貯木場地区が26%、工場や煙突を主要とした三保地区が52%となっている。

平成6年度に行った清水市民へのアンケート調査の結果によると、色彩計画を知っていると答えた人が41%となっており、また清水港が色彩計画によって変化していると答えた人が41%で、その人の中の70%程度が色彩の変化を評価している。

このように色彩計画は多くの人の評価を受けているが、同協議会では「1999年の開港100周年に向けて、計画的かつ総合的な視点から、年次別、ゾー別の段階的な塗り替えを提案していく」と説明している。

1999年の開港100周年には、清水港が日本三大美港の一つとしてさらに美しい港になると思われる。

**TSL実験船の活用方策について**

静岡県が防災船として購入する超高速船「TSL（テクノスパーライナー）」実験船の活用を検討する「静岡県テクノスパーライナー活用検討委員会（委員長・小山健夫東大教授）」の第3回検討委員会が6月13日に下田市で開催された。

県の活用案としては、防災訓練や研修などの防災船として年間50日程度、定期点検に年間35日が必要で、残りの280日を一般活用とする計画である。一般活用案としては、一般県民や青少年を対象とした体験乗船、観光の活性化による地域づくりの支援のため清水港と下田港を運航するカーフェリーとしての活用、企画商品の開発などによるチャーター方式による活用、海をテーマにしたセミナー・国際交流イベントなど各種会議などへの活用、防災をキーワードにした防災学習講座などへの活用、などについて当局側から示され、大筋で認められた。

今後は、長崎で改造を着手し、来年の3月の完成を目指している。4月からは防災関係、7月中旬からはカーフェリーとしての運航を予定している。

**LNG運搬船 清水港に初入港**

同船は世界に一隻しかなく、防災船としての利用や観光面、その他の利用として大きく寄与することが期待されている。

去る6月6日、LNG（液化天然ガス）運搬船「プテリ・ニラム」（86、205トン）が清水港袖師の東燃（株）の専用棧橋に初入港した。



静岡ガス（株）の都市ガス供給を石油系ガスから天然ガスに転換する計画に基づきマレーシアから輸入したものであり、このLNGは、清水エル・エヌ・ジー（株）が都市ガス化し静岡ガスが供給する。

同船はLNGを一度に52,000トン（130,000m<sup>3</sup>）輸送する能力があるが、受け入れタンク施設の関係から今回は、半分の25,000

**清水の史跡 ⑧**

☆高山 樗牛の墓 ☆

日本平の東側の麓、清水市街を目下に、三保の松原から駿河湾、霊峰富士を望む日蓮宗の寺、龍華寺にその墓はあります。

明治の文豪高山樗牛は、この風光を大変気に入り、この寺に墓を建つことを、遺言しました。



大サボテン、大蘇鉄の庭から茅葺き屋根の本堂の横を通って、小径を少し登る裏山の木立ちの中に、前述の景色をそのままに見続けて樗牛の胸像とドイツ式の墓があります。

墓石には、「吾人は、須らく現代を超越せざるべからず」と彫んであります。

旧制中学校の国語の教科書に記された文の一部で「われ

われは、現代を更に超越して過ごさなければならぬ。純粹な心で勉強しよう。」と喚起しているのかも知れません。

### 御前崎港 事務所だより

#### ●はいなん夢(くぐり)

#### シンポジウム'96

海から見直そう、榛南の未来”をテーマに榛南地域の財産である「海」をまちづくりに生かすため、官民が一体となって考える「はいなん夢(くぐり)シンポジウム'96」が7月7日、榛南夢づくり実行委員会主催で御前崎町文化会館において開催されました。会場には約450名が参加し、御前崎工場からも牛田工場長外2名が参加しました。

シンポジウム基調講演では、テレビ「開運なんでも鑑定団」でおなじみの鑑定士中島誠之助氏が「榛南の夢づくり鑑定やいかに!？」と題して、大学で水産学を専攻し、カツオ船への乗船経験も織り交ぜながら、榛南・御前崎の自然条件を語った上で、「ほかではできない国際的な海洋学、地球物理学の研究センター」の設立を提案しました。また、37年ぶりに訪れたという中島氏は当時訪れたときに詠んだ詩を紹介しながら、御前崎港の整備が進んでいることを見て、

港づくりは「文明」、それをいかに自然と調和しながら産業に、レジャーに有効に使っていくかは「文化」と、港湾の整備とその利用について御前崎への思いも込めて熱く語りました。

パネルディスカッションでは、地域産業研究所の田中孝治所長をコーディネーターに、田村貞次三崎マリン(株)専務、植田督郎B&G御前崎海洋クラブ会長、鷲坂隆夫地頭方地域づくり研究会副会長、半田里子榛南フェミニン代表、川口正洋榛南青年会議所理事長がパネリストを務め、海をテーマにした課題や地域づくりについて語られました。その中で「海の汚れを防ぐために、家庭排水問題への意識向上が不可欠」「子供たちを海に近づけないような教育がされているのでは」などの検討課題が出されました。最後に川口榛南青年会議所理事長が「今までの行政主導・住民参加の地域づくりではなく、住民主導・行政参加の地域づくりができるよう青年会議所としても様々な運動を展開していきたい」と決意を込めた発言で締めくくりました。

### 下田港 事務所だより

#### ●ケーソン仮置き・進水完了

昨年9月から着工し約11ヵ月間、雨風、さらに照り付ける太陽にも負けず作業を行ってきた防波堤D区本体工事の主役、「消波ブロック内蔵双胴型ケーソン」が遂に完成し、進水・仮置きを7月25日〜27日に行いました。

作業当日は日頃の行いがよかつたせいかどうかは解りませんが、風もなくおだやかな晴天に恵まれ順調に作業が進みました。今回の作業の中で最も神経を使うケーソンをフローティングドックから引き出す作業も、関係者、新聞社、テレビ局など多くの人たちが見守る中、順調に進み無事に作業を完了することができました。

しかし、まだ防波堤としてはやっとならば赤ちゃんみたいなものです。これから弟、妹が次々生まれ下田の海で大きく育つて立派な防波堤になるには、問題は山積み。まだまだ試行錯誤、頑張らねば。 ※写真は表紙をご覧ください。

#### ●後ろ曳で疲れそう

清水港ケーソン製作場で昨年度製作した、御前崎港防波堤(東)用の大型ケーソン(15.0m×16.5m×11.5m・重さ1,873t)7函を3,600psの引船で距離57kmを15時間かけて、後ろ曳で回航しました。

一見船も船長も疲れそうですが、この方が舵の利きが良いとのこと、両方とも元気に無事回航を終えました。



#### コラム

#### 清水港横断遠泳大会

7月28日、清水みなとまつり行事の一環として日の出埠頭から三保海水浴場間の遠泳大会が関係官庁をはじめ、多数の関係者の協力のもと開催されました。新聞で記事を見た瞬間、港で働く一員としては逃せられない企画だと思い早速エントリーしました。2.4kmという足の着かない長い距離を泳ぐということで少々不安でしたが、参加者全員完泳でき、終わってみれば大変楽しいものでした。私たちが整備している清水港を普段と違う視点で見ながら、船で10分のところを2時間もかけてアクアブルー&ホワイトの「美港」清水港を海水の塩辛さと

共に堪能しました。大塚尚志

### 管内の動き

- 6月
  - 4日 静岡県港湾振興会総会
  - 4日 静岡県建設業会総会
  - 6日 御前崎港整備促進期同盟会総会
  - 7日 御前崎港振興会通常総会
  - 12日 清水港振興会定期総会
  - 17日 TSL清水港寄港誘致促進期同盟会総会
  - 19日 清水、静岡市議清水港視察
  - 20日 清水港連絡協議会
  - 25日 静岡県防災会議
  - 28日 田子の浦港振興会定期総会
- 7月
  - 9日 清水商工会議所で所長講演 運輸省・労働省静岡地方機関連絡会議
  - 16日 駿河海岸連絡調整協議会委員会 F A Z 推進協議会総会
  - 17日 第五港湾建設局港湾空港関係功労者等表彰式
  - 19日 田子の浦港開港30周年記念式典
  - 22日 清水港みなとづくり見学会
  - 23日 清水港連絡協議会船上懇談会
  - 25日 JICA研修生清水港視察
  - 13日 清水商工会議所清水港視察
  - 21日 新造船「ふじ」試乗会、祝賀会
  - 11月
    - 29日 静岡地区市町村長懇談会
    - 11日 伊豆地区市町村長懇談会

発行所\* 清水港工事事務所 〒424 静岡県清水市日の出町七一 Ⅲ (〇五四三) 五二一四一四六代